

幼児英語教育について⁽¹⁾

アレン玉井光江・上野めぐみ*

Abstract

The Japanese Ministry of Education has decided to implement a new course called “Period of Integrated Studies” from 2002, in which some children in public elementary schools will have exposure to English. It is suspected that the implementation of English lessons at the elementary school level will also affect education at kindergarten level. This paper discusses three of the most important factors involved in producing English programs in a kindergarten—(1) language teaching approach, (2) techniques, and (3) curriculum. The activity-based approach is introduced, to compare it with the traditional language-based approach. The authors—English teachers at a kindergarten—also introduce three popular techniques, which bring about positive learning effects in their classes—(a) Mother Goose songs, (b) Total Physical Response, and (c) Storytelling. A good relationship between English teachers and kindergarten teachers is surely an indispensable element for making a program run successfully.

Key Words : English education, Kindergarten, The activity-based approach

はじめに

2002年度より公立小学校において「総合的な学習の時間」内で国際理解教育の一環として英

Teaching English at the Kindergarten

* Mitsue Allen-Tamai/Megumi Ueno

(1) 本文研究は平成11年度文京女子大学共同研究費を使って行われた。

Correspondence Address : Faculty of Human Studies, Bunkyo Women's University,
1196 Kamekubo, Oimachi, Iruma-gun, Saitama 356-8533,
Japan.

Accepted October 12, 2000. Published December 20, 2000.

会話などを学習することが可能になった。その目的は異なる文化をもつ人たちと積極的に関わろうとする態度を育成することにある。1992年度より行われている文部省主導の実験校での試みはおおむね成功したと報告されている。「総合的な学習の時間」の中で行われる英語教育の目標は、英語能力発達というよりも、全体的なコミュニケーション能力の発達であり、児童の能力評価は言語能力においても、コミュニケーション能力においても行われない予定である。したがって現在のところでは児童が楽しく英語の授業を受けていればその授業は成功したことになる。様々な問題が挙げられる中で現職の小学校の先生方への英語教育、またこれからの教師養成に関する問題、また中学校以降の英語教育との連携が一番気になるところである。

このような小学校における早期外国語教育の始まりは学齢期前の子どもたちの教育にどのような影響をおよぼすことになるのだろうか。上記の問題以外に母語発達への悪影響もしくは英語偏重という理由から小学校での英語教育に反対する声は大きい。同様に幼稚園での英語教育に対しても人としての生きていく基本を作る幼稚園時代に英語を教える必要があるのだろうか、とか、個性を無視した一斉授業の形態をとる英語教育は個々の子どもの発達段階を無視していると批判が多い。本論文においてはこのような早期英語教育に対する批判に答える形で発展させてきた児童英語教育の(1)アプローチ、(2)具体的なテクニック、そして(3)カリキュラムについて言及する。

研究サイト

英語教育について具体的に言及する前に、研究サイトである文京幼稚園での英語教育の体制について説明したい。この幼稚園では3年保育と2年保育が行われているが、ほとんどの幼児は3年保育を受け、年少3クラス（各20名程度）、年中、年長ともに2クラス（各30名程度）、合計180名にちかい幼児が在籍している。年長・年中児を対象に週1回20分程度の英語の授業が始められて今年度で32年目を迎える。時代の要請に答える形で1997年度より年中児クラスは10月開始が5月開始になり、1998年度よりさらに年少児クラスが開始された（今年度は10月開始で8回の授業が予定されている）。英語の授業形態は英語教師1名、補助英語教師1名、担任の教師1名で行われていたが、今年度より年長クラスでは英語教師1名、学年付き教師1名、担任の教師1名という体制をとっている。これは園の生活の中でより深く英語の授業が根付くことをねらいとした試みである。

幼稚園の教諭との連絡はお互いにできるだけ緊密にとるように努力している。まず最初に英語教師は4月中に年間の大まかなカリキュラムを担当の教諭に伝える。後の細かい連絡は、連絡メモと英語連絡帳ノートと呼ばれるものを利用している。連絡メモには、英語の授業の日にちや時間などの確認、もしくは変更があったときの振り替え確認など、主に事務的な連絡が書かれる。英語の授業に関する連絡は連絡帳ノートに書かれる。そのノートには通常英語教師か

ら次週に行われる授業予定が簡単に紹介され、特に必要だと思われる、例えば、活動に必要な椅子の配置などについて事前に連絡し、幼稚園の先生に協力を要請する。幼稚園の先生の方では英語の授業後、感想をかねて反省点などを書いて英語教師に Feedback する。また、月に1度英語教師が幼稚園の研修会に出向き、授業で使われる歌、ゲーム、本などを幼稚園の先生全員に紹介し、練習する。つまり文京幼稚園では「子どもにとってよりよい英語教育」を目指し幼稚園の先生と英語教師が一致団結して取り組んでいる（参照：橋本その他、1997）。

1. 言語教育アプローチ

Anthony (1965) はアプローチを言語の性質と言語習得に関する理論と定義している。Aural-Oral Approach, Cognitive Code Approach, Communicative Approach 等は代表的なものであるが、ここでは Language-based Approach と Activity-based Approach という対照的なアプローチを紹介する。Language-based Approach とは従来外国語学習においてよく行われている言語材料が中心となるアプローチで、その伝統的な教授法では教科書に提示されている言語材料がそのまま学習目的になっている。特に大人の学習者を対象としたクラスでは同じような言語材料が同じような方法で教えられる。この方法では教師はクラスをコントロールしやすいという利点があるが、集中力が長く続かない子どもたちを対象としたクラスにおいてはこのような教授法では子どもたちが飽きてしまうのは容易に想像できる。

それに対して活動を中心とした授業展開をするのが Activity-based Approach である。簡単にこのアプローチを説明すると、先生は直接に言語材料を教えるように授業を構成するのではなく、実際にしなければならないタスク(practical task)を通して子どもたちが自然に言語材料に接することができるように授業を進める。彼らはタスクをやり遂げていく過程で（教師が導入したい）言語材料を自然に身につけるように授業を構成していく方法である。実際にこのような授業は、それぞれの年齢にあった興味深い学習トピックを決めるところから始まる。

幼稚園で行っている一つの例を紹介する。年長児を対象として「森」というテーマのもと授業を8回ぐらいに（約2ヶ月）分けてすすめていく。まずは In a cabin という森の中に住むウサギが獵師に追われて小さな男の家に転がり込んでくるという歌を導入する。これは手遊び歌にもなっており、また日本語の歌としても多くの幼児が親しんでいる歌なので歌詞の難しさに反して定着が良い歌の一つである。

In a cabin

In a cabin, in the woods,

A little man by the window stood,

Saw a rabbit hopping by,

Knocking at his door,
“*Help me, help me, let me in.*”
Or the hunter shoots me dead,
“Little Rabbit, come inside,
Safely you can hide.”

この歌の導入と同時に「3匹の豚」の話も Book Reading, Storytelling を通して導入する。その際、狼が豚を襲うときの台詞を下のように若干変更し、幼児たちが *Help me, help me, let me in.* という句を異なる学習場面（歌と本読み）で聞けるように工夫している。

Wolf “Little pig, little pig, *let me in!*”
Pig (1) “Not by the hair on my chinny, chin, chin.”
Wolf “Then, I’ll huff and puff and blow your house in.”
Pig (1) “*Help me, help me, let me in.*”

歌と物語を導入するときには多くの視覚教材を使うので、2～3回目の授業ですでに幼児たちは「森」についてかなり想像もふくらみ、親しみを感じてくる。そこで「森の中の動物」という活動に入る。これは泉に集まってくる動物を足跡だけで見つけてみようというクイズ的な活動であるが、言語目標はそれぞれの動物を英語で聞き、理解し、さらに言えるようにするというものである。活動を中心としたクラス構成では学習者は与えられた活動を完成させることに集中するのでいろいろな指示語を第二言語で聞いてもさほど違和感を感じないで活動に没頭できるという利点がある。この動物探しの活動も幼児に理解できるような視覚（または聴覚）教材が十分に準備されていれば教授言語を英語にしても子どもたちは楽しく活動を行うことが可能である。この場合英語教師が使っている英語は大変自然で意味のあるものとなる。

このアプローチの問題点としては、実際に限られた授業時間内に使える活動、タスクが極めて少ないことである。また、教室のスペース配分、時間配分など活動が複雑になると1時間の授業内では収まりきらないこともある。さらに子どもたちの反応が一律ではないためレッスンプランがたてにくいというマイナス点もある。先生としては時間をかけてそれぞれの年齢にあった practical task を少しずつ作成し、貯めていくことが大切で、それらを他の先生と共有すると効率よくタスクを増やすこともできるであろう。

このアプローチは柔軟性に富み、子どもたち同士の相互関係、信頼関係を増すなどの利点はあるが、前述のごとく適当な言語材料を含む practical task を作る事が想像以上に難しく、また時間を費やす仕事である。practical task は子どもの心と体の成長に適したものでなければ意味がなく、そのためにも子どもたちの生活全体を把握し、彼らの認知発達について理解す

ることが必要であり、このアプローチで授業を進めるには、毎日幼児と深く関わっている保育者からの Feedback が不可欠である。

2. テクニック（授業活動）

ここでは具体的に幼稚園の英語の授業で行われている3つの代表的なテクニック(1) Mother Goose Songs, (2) Total Physical Response, (3) Storytelling を紹介する。

(1) Mother Goose songs

マザーグースとは古くから英語圏の子どもたちに親しまれている童謡の総称である。イギリス18世紀 Nursery Rhymes（童謡、童歌）に初めて Mother Goose's melody と用いられたことによるとされている。現在では、英国では Nursery Rhymes, 米国では Mother Goose Rhymes とよばれることが多い。Bryant, Maclean を中心とした英国の心理学者はマザーグースの知識と子どもの音韻認識能力の発達との関係を研究し、そこに強い相関関係があったと報告している（Maclean, Bryant, & Bradley, 1987; Bryant, Bradley, Maclean, & Crossland, 1989）。日本人の幼児を対象にした研究においてもマザーグースを知ることで幼児は脚韻能力を無意識のうちに向上させていたことが発見された（アレン玉井, 2000）。現在も多くの幼児・児童英語教師はマザーグースの歌を授業で使用している。マザーグース教材も多種多様に用意され、その利用価値は既に認められているが、音韻能力を向上させるという観点からも積極的に取り入れたい教材である。具体的に年中児、年長児において導入されている歌は次のようなものがある。

まず年中児への Mother Goose Songs の導入例として、Baa Baa Black Sheep を挙げることにする。

Baa, Baa, Black Sheep
Baa, baa, black sheep,
Have you any wool?
Yes, sir, yes, sir,
Three bags full.
One for the master,
And one for the dame,
And one for the little boy,
Who lives down the lane.

13世紀頃の英国での税金制度を歌ったとされるこの歌は、子どもたちにとってはかわいらしい羊たちが出てくる楽しい activity song で、毎年導入されている。これは定着度も高く、擬声語を自然に導入するためにも重要な歌である。また、この歌に関連させて他の動物の鳴き声を想像する guessing game を行うこともできる。年中児にとって十分魅力的な材料である。

具体的には15分授業の中で、その3分の1（約5分間）を使い、3～4週間にわたって次のような段階でその導入、または定着を図る。まず、視覚教材—フラッシュカードや絵などを提示し、その理解の大半を委ねる。日本語での理解よりも絵や gesture（振りつけ）による理解を求めるように心がけている。導入目標はあくまで歌を楽しみ、英語の音韻能力に対して意識を高める為であるので、それぞれの語彙に対する言及は当然避ける形になる。手拍子に合わせてそれぞれの句を最初はゆっくり、徐々に natural-speed に出来る限り近づく速さで言えるように繰り返し試みる。その後、テープレコーダーに合わせて歌う練習を繰り返していく。どうしても gesture に気を取られがちになるのだが根気よくその後何度も復習していくことで上達していく。また、幼稚園の先生方と連携して保育時間に英語の歌を組み入れてもらうことができればその定着も早くなるであろう。保育時間における英語の導入内容の組入れは歌に限らず今後は重要な要因となってくるであろうし、幼稚園の先生方との日々の連携は最重要と言えよう。Baa, Baa, Black sheep は前述の擬声音の導入だけではなく子どもたちの日常生活に羊毛がどう関わっているか羊毛を使ったものには何があるのか等、うまく子ども達の日常に関連した事を取り上げることで自然な言語材料を扱うことにもなるであろう。

次に年長児の導入例として Pease porridge Hot を取り上げる。

Peas porridge hot,
Peas porridge cold,
Peas porridge in a pot
Nine days old.
Some like it hot,
Some like it cold,
Some like it in a pot
Nine days old.

子どもたちが寒いときに手を暖めるための手叩き歌とされるこの歌は、第1回導入時には picture cards を示しながら Chants, gesture を加える形で進めらる。歌詞が定着するまで変化を加える。同じ歌であっても、子どもたちにお母さんの声、お父さんの声、赤ちゃんの声などと声の調子を変えて歌詞を発話させる task を与えられると子どもたちは楽しくその activity を行う。常に定着までの過程において子どもたちに飽きさせない工夫は怠ってはなるまい。第2段階として歌を楽しみながらその歌が生まれた地域文化を知っていく。さらには、歌を歌

いながら二人が向き合って腿，手，お互いの手の順番で叩き合う遊び，足と手を同時に合わせ
る，腰と腰をぶつける等の遊び歌として発展させていく。

さて，参考に今まで年中，年長児で扱ってきたマザーグースの歌を挙げることにする。

年中児：Ring- a- ring O'roses, London Bridge, Head, Shoulders, Knees, And Toes

Baa, Baa, Black Sheep, BINGO, Little Peter Rabbit

年長児：Farmer in the Dell,

Pat-a-Cake, Pease Porridge Hot

Hickory Dickory Dock, Hot Cross Buns

Humpty Dumpty, Hey Diddle Diddle

I'm a little tea pot, In a Cabin

初級，中級の基本的到達目標を(1)英語のリズムや音に慣れる，(2)英語独特のリズム抑揚を体
得する，と考えると Mother Goose Songs は理想的教材の一つとして今後も導入方法，教材
共に研究対象として取り組まなくてはなるまい。

(2) Total Physical Response, Theme-based TPR

Total Physical Response (通常 TPR と略して呼ばれる) は全身反応教授法と訳されてい
るが，Asher (1966 & 1972) によって開発された言語教授法である。その基本的な考え方は
外国語学習の初期段階においてはリスニング技能を伸ばすことを中心にしようとするものであ
る。授業の中で教師が命令や指令の形で目標言語を導入するが，学習者は指示がわかればそれ
を体で反応していくというものである。

言語活動と全身動作との連合により目標言語の定着を図るためには年少，年中，年長この期
間を常に一つの流れとして考えていく必要がある。Asher が着目した通り，強制的に発話を促
さないこの方法は子どもたちの心理的圧迫感を最小限度に押さえ，activity への参加を自然に
促す。現に子どもたちは個々人それぞれのスタンスで参加している。みんなと同じ動作とまで
はいかないが初回参加できなかった子どもたちの中にも2回3回と授業が進む中，椅子に座っ
たままであっても手や足を，中には体は動かないが言葉をくり返す子どもを目にする。特に
TPR を入れることによって授業自体の緩急を作ることにもなり，入門期には特に欠かせない
テクニックである。

具体的には年中児クラスで使用している TPR は次のようなものである。

Sit down, Stand up, Turn around, Jump (three times, once, twice). Clap (your hands,
1,2,3), Run, Walk, Stop, Dance, Swim, Eat, Drink, Point, Stamp (your feet), Stretch
(your body), Open/Close (your eyes, mouth, hands), Fly (like a bird), Touch (your
head……), Sleep, Wake up, Brush (your teeth), Wash (your face), Wiggle (your

fingers)

以上のような動詞をなるべく日常、行事などに関連づけ、さらには Book-reading, Storytelling によって視覚的、聴覚的にも強化を図りながら導入していく。年長児においては年中で覚えた英語での基本的な動作の強化、定着の為に Theme-Based TPR という方法を導入している。つまり理解力の備わった年長児に対して、あるテーマのもと関連がある一連の動作を教えていく。ここではその1例として The Gingerbread Man という本を読んだ後に行う「クッキー作り」の Theme-TPR を紹介する。

Butter into the bowl.

Eggs into the bowl.

Sugar into the bowl.

Flour into the bowl.

Mix, mix, mix, mix them with a whisk,

Dough into the fridge,

Dough out of the fridge,

Roll, roll, roll, roll it on the board,

Make a Gingerbread Boy.

Make a Gingerbread Girl.

Put them into the oven.

(3) Storytelling

昔話、伝説、説話など「話」にはいろいろな種類があるが、幼児・児童に限らず「話」を聞くことは楽しいものである。クラスの中で Storytelling を行うことにより、通常先生対生徒という縦関係であるものが、語り手と聞き手という違った位置関係になることができる。現代のような情報社会で暮らす子どもたちもやはり「お話をしてもらおう」ということはとても楽しいようで、多くの子どもたちがお話の時間を楽しみにしている。しかし英語（第二言語）で「お話」をするとなると児童の英語力を推測しながら、そのレベルに合わせて話をしていくという能力が必要になってくる。教室では (a) フラッシュカードなどを使って話のキーワードを必要ならば日本語を交えて説明し、(b) 絵を指しながら、なるべく臨場感を出して読む。そして (c) 再び読み返しをする。読み返すときには児童に動作をさせたり、繰り返して出てくるフレーズを言わせたりなるべく彼らが話に参加できるように工夫する。例えば The Gingerbread Man を読むときなどは、子どもたちに “Stop, Gingerbread Man.” “Come back, Gingerbread Man.” などと読み手である教師とともに掛け声をかけてくれるように指示すると、子どもたちはフレーズを丸ごと覚えてしまい2回目までには大きな声で言ってくれるようになる。

年長児と比較すると、年少、年中児クラスにおいては複雑な物語を話すことは難しい。しかし Five Little Monkeys jumping on the bed 等のように比較的繰り返しが多く、動作を付けてチャンツ風に読むことができる本は、子どもたちに何らかの刺激を与えるらしく、身振りを copy する子、口まねを試みる子など様々な反応を見ることが出来る。教師はそのような子どもからの反応に対応する形で授業を進めていく、そのため教師側はそういった反応を逃さぬよう常に子どもたちの一人一人に目を配らなければならない。

3. カリキュラム

最後に年長、年中クラスのカリキュラムの1例を紹介する。全体的に前述の Activity-based Approach に基づいた活動が中心のものになっている。

(a) 年長児クラスカリキュラム

1 回目 (song)	The Alphabet
	Hello, hello, what's your name?
(TPR)	Simon says (stand up, sit down, etc)
(book)	Yo! Yes!
2 回目 (song)	The Alphabet
	The Farmer in the Dell
(TPR)	Simon says
(book)	The Farmer and the Beet (Hello, Mr._____. Please help me. Thank you, Mr._____)
3 回目 (song)	The Alphabet
	The Farmer in the Dell
(TPR)	Growing the plant
(storytelling)	The Farmer and the Beet
4 回目 (song)	The Alphabet
	The Farmer in the Dell
(Theme TPR)	Growing a plant
(book)	The Little Red Hen
5 回目 (song)	The Alphabet
	Old MacDonald had a Farm (duck, dog, cat, hen)
(TPR)	Growing the plant

	(storytelling)	The Little Red Hen
6回目	(song)	The Alphabet Old MacDonald had a Farm
	(book)	The Gingerbread Man (目標言語 wait, come back)
7回目	(song)	The Alphabet Old MacDonald had a Farm
	(TPR)	Making Gingerbread Boy/Girl
	(storytelling)	The Gingerbread Man (目標言語 parts of the body)
8回目	(song)	The Alphabet Pat-a-Cake
	(Theme TPR)	Making Gingerbread Boy/Girl
	(storytelling)	The Hungry Caterpillar
9回目	(song)	The Alphabet Pat-a-Cake
	(TPR)	The life of the cicada
	(storytelling)	The Hungry Caterpillar
10回目	(song)	The Alphabet Pat-a-Cake Review
11回目	(song)	The Alphabet I'm a little Tea Pot
	(TPR+storytelling)	The Little Indian Boy
12回目	(song)	The Alphabet I'm a little Tea Pot
	(TPR+storytelling)	The Little Indian Boy
13回目	(song)	The Alphabet I'm a little Tea Pot
	(TPR+storytelling)	The Little Indian Boy
14回目	(song)	The Alphabet I'm a little Tea Pot
	(TPR+storytelling)	The Little Indian Boy
15回目	(song)	The Alphabet Pumpkin, pumpkin

	(storytelling)	Dark, dark night
16回目	(song)	The Alphabet
		Pumpkin, pumpkin
	(storytelling)	The Little White Cat
		Trick or Treat
17回目	(song)	In a Cabin
	(book)	The Three Little Pigs
		(Help me, help me, let me in.
		Not by the hair on my chinny, chin, chin)
18回目	(song)	In a Cabin
	(storytelling)	The Three Little Pigs
19回目	(song)	In a Cabin
	(storytelling)	Little Red Riding Hood
20回目	(song)	We wish you a Merry Christmas
		Decorating a Christmas tree
21回目	(song)	We wish you a Merry Christmas
		Do you hear what I hear
	(storytelling)	The Holly Night
22回目	(song)	This is the way
	(TPR)	Daily activities
	(book)	Goldilocks and the Three Bears
		(目標言語 : soft, hard, hot, cold)
23回目	(song)	This is the way
	(TPR)	Daily activities (Wed, Th, Fri, Sat)
	(語彙)	The names of the rooms
		Where is Goldilocks?
24回目	(song)	This is the way
	(TPR)	Daily activities
	(storytelling)	Ma Liang (a Chinese story)
25回目	(song)	I love somebody
	(book)	Strange Animal (an African story)
26回目	(song)	I love somebody
	(storytelling)	The Cupid+St, Valentine
27回目	(song)	Review
	(book)	The Little Ant (a Mexican story)

28回目 (song) Ha, ha, this-a-way
(book) The First Day of School

(b) 年中児クラスカリキュラム

1 回目 (song) Hello song, Family song, (年少クラスの復習), Hello, my friends!
(Vocabulary) Greetings
(TPR) Stand up, Sit down, Jump, Stop, Sleep
(book) Good night, gorilla (1)

2 回目 (song) Hello song, Hello, my friends!
(Vocabulary) numbers, colors, shapes
(TPR) review, Jump three times
(book) Good night, gorilla (2)

3 回目 (song) Family song, Hello, my friend!
(Vocabulary) review
(TPR) review, Jump twice, Wake up
(Drawing) What's this? Guessing game
Thank you. (Mother's Day)

4 回目 (song) Hello, my friends!
(Vocabulary) spring (flower)
(TPR) review, Stretch your body
(book) Spring is here (1)

5 回目 (song) review, Head, Shoulders, Knees, and Toes (1)
(Vocabulary) spring
(TPR) Jump like a frog, Fly like a bird
(book) Spring is here (2).

6 回目 (song) Head, Shoulders, Knees, and Toes (2)
How's the weather? (1)
(Vocabulary) Rainy season
(TPR) review, Clap your hands
(book) Blue Hat, Green Hat (1)

7 回目 (song) How's the weather? (2)
(Vocabulary) Rainy season, Father's Day
(TPR) review
(book) Blue Hat, Green Hat (2)

8 回目	(song)	review, Black Cat's Song (1)
	(Vocabulary)	Rainy season
	(TPR)	Open, Close, Jump up high
	(book)	Rainforest
9 回目	(song)	Black Cat's Song (2)
	(Vocabulary)	Star festival, animal
	(TPR)	Swim, Look
	(book)	Five Little Monkeys jumping on the bed (1)
10 回目	(song)	Black Cat's Song (3)
	(Vocabulary)	Summer
	(TPR)	Roll your arms slowly/quickly
	(book)	Five Little Monkeys jumping on the bed (2)
11 回目	(song)	Black Cat's Song (4)
	(Vocabulary)	Summer
	(TPR)	Review
	(book)	Five Little Monsters jumping on the bed (3)
12 回目	(song)	The Wheels on the bus (1)
	(TPR)	review, Touch your……
	(Game)	Knock, knock, knock. Open, please.
	(alphabet)	ABCDEFG
13 回目	(song)	The Wheels on the bus (2)
	(TPR)	Run, Walk, Dance
	(Game)	Knock, knock, knock. Open, please.
	(alphabet)	HIJK
14 回目	(song)	The Wheels on the bus (3)
	(TPR)	On your mark, ready, go.
	(book)	The Wheels on the bus (3)
	(Game)	Knock, knock, knock. Open, please.
	(alphabet)	LMN
15 回目	(song)	The Wheels on the bus (4)
	(Vocabulary)	Halloween (1) sweets
	(TPR)	Knock, Run away
	(Game)	Sweet or salty or sour?
	(Game)	Knock, knock, knock. Open, please.
	(alphabet)	OPQR

16回目	(Chant)	Trick or treat
	(Vocabulary)	Halloween (2) The haunted house
	(TPR)	Drink, Eat
	(book)	Happy Halloween
	(Game)	Knock, knock, knock. Open, please.
	(alphabet)	STU
17回目	(song)	BINGO (1)
	(Vocabulary)	Animals (1), Autumn
	(TPR)	Dig
	(book)	BINGO
	(Game)	Knock, knock, knock. Open, please.
	(alphabet)	WXYZ
18回目	(song)	BINGO (2)
	(Vocabulary)	Animals (2)
	(TPR)	Review
	(book)	I can't get my turtle to move.
19回目	(song)	BINGO (3), Little Peter Rabbit (1)
	(Vocabulary)	Animals (3)
	(TPR)	Sleep
	(book)	Baby Animals Learn
20回目	(song)	Little Peter Rabbit (2)
	(Vocabulary)	Winter sleep (1)
	(TPR)	Wash, Brush
	(book)	Winter
21回目	(song)	Little Peter Rabbit (3)
	(Vocabulary)	Christmas (1)
	(Game)	What's inside?
22回目	(song)	We wish you a Merry Christmas
	(Vocabulary)	Christmas (2)
	(TPR)	review
	(book)	Do you hear what I hear?
23回目	(song)	Baa, Baa, Black sheep (1)
	(Vocabulary)	Our foods (1)
	(TPR)	review,
	(book)	Animal book (Moo, oink……)

24回目	(song)	Baa, Baa, Black sheep (2)
	(Vocabulary)	Our foods (2)
	(TPR)	Eat (Yummy), drink and brush your teeth
	(book)	About the wool
25回目	(song)	Baa, Baa, Black sheep (3)
	(Vocabulary)	Our foods (3)
	(TPR)	Review
	(book)	About the foods
26回目	(song)	London Bridge (1)
	(Vocabulary)	Shopping (1)
	(TPR)	Go to
	(book)	Bridge
27回目	(song)	London Bridge (2)
	(Vocabulary)	Shopping (2)
	(TPR)	review
	(book)	Market
28回目	(song)	Review
	(Vocabulary)	Shopping (3)
	(TPR)	Thank you. You're welcome.
	(book)	I like pink, I think.
29回目	(song)	Review
	(Vocabulary)	Sorry. That's OK.
	(TPR)	Review
	(Story telling)	

まとめ

さて、児童英語教育のアプローチ、具体的なテクニック、カリキュラムについて言及してきたのだが、まとめとしてカリキュラム全般と今後の課題について述べていくことにする。

カリキュラムとは教える内容全体と、その教育の場における実現されるべき目標を示すものである。私どもは幼稚園において英語教師として週に1度、限られた時間の中で子どもたちと英語を介して接する。保育時間の中に設定された英語の授業の中で果たしてどれだけのことができているのか、幼児を対象としているだけにそれに対して明らかな答えを出すのは難しい。私たちは常に子どもたちに何らかの形で英語が自然に input されることを願いながら授業に臨

んでいるが、限られた授業内で彼らの成長に気づかされることはまれである。そのあまりに短い授業時間においては子どもたちの成長の連続を見ていくことは大変難しい。したがって、子どもたちの一部しか知り得ない英語教師と日常を知る保育者との連携があって初めて子どもたちの存在を十分に把握し、彼らの情緒的、また身体的な発達に合ったカリキュラムを生み出すことが可能になる。前述の通り今年から年長クラスには学年付き教師に英語教師のアシストの形で授業に参加してもらっている。幼稚園の立場から保育時間の中でどのように英語が教えられているのか体験していただき、他の保育活動とのよりよい連携を築き上げるために貴重な意見を聞かせていただけると期待している。Team-teaching をより効果的に生かすため、また英語教師と担任教師との連携をさらに向上するための試みでもある。

常に「子どもにとってよりよい英語教育」と問いながら試行錯誤していく中においても最良のカリキュラムは一通りではない。一斉活動として初めて英語と出会う子どもたち、その年齢、月齢に適したカリキュラムをどの視点から組んでいくのか。年少、年中、年長にわたって子どもたちをあらゆる側面からを見据えた上で、手応えを確かめながら進めていく。幼稚園の中の英語の授業の位置を確かめながら、より自然な学習として教育的意図をあまり感じさせないように組み立てる。子どもたちの興味を引きつけながらその attention span をうまく活用してゆくためには年間カリキュラムの組立とともに各授業の中での activity の組立も重要性を帯びてくる。

私たちは常に学習者たちに即した〈より良い〉学習環境と〈より自然な〉学習過程を可能な限り与えられるようカリキュラムを常に練る努力を尽きさなくてはならない。新しい世紀に向けて日本における英語教育は明らかに新しい転換期を迎えるであろう。多くの課題が待ち受ける中、その道筋に新しい光をかすかに感じているのは私たちだけではないと確信している。

文 献

- Allen-Tamai, M. (2000). Phonological awareness and reading development of young Japanese learners of English. Unpublished Doctoral Dissertation
- Anthony, E. M. (1965). Approach, method, and technique. In H. B. Allen (Ed.) *Teaching English as a second language: A book of readings*. New York; McGraw-Hill.
- Asher, J.J. (1966). The learning strategy of the total physical response: A review, *Modern Language Learning*, 50, 2, 79-84.
- . (1972). Children's first language as a model for second language learning, *Modern Language Learning*, 56, 3, 133-139.
- Bryant, P.E., Bradley, L. Maclean, M., & Crossland, J. (1989). Nursery rhymes, phonological skills and reading, *Journal of Child Language*, 16, 407-428.
- 橋本容子, 益田薫子, 奥村幸子, 西村有美, 北澤明子, 山中理恵, 瀬戸規子, 戸部礼子, 有賀恵美子, 梶井洋子, 小島加奈恵, アレン玉井光江, 「文京幼稚園における英語教育の変遷と試み」『文京女子

大学紀要創刊号』 pp. 89-108

Maclean, M., Bryant, P.E., & Bradley, L. (1987). Rhymes, nursery rhymes, and reading in early childhood. *Merrill-Palmer Quarterly*, 33 (3), 255-281.